



発行所 十勝毎日新聞社 千歳市東1条南8丁目 電話=編集2121、広告2323、総務・販売2222 ©十勝毎日新聞社 1987

# アメリカ 宇宙開発最前線

アメリカ北西部ワシントン州シアトル。ここは日本と無縁で関係が深く、日本語が第二外国語、土曜日の夜、ホテル・ホリデー・クラブで、宇宙に関する最新技術開発米英調査団(コーデイン)ター・高橋仙之介東工大講師(工学博士)、一行四人と合流した。そこで翌日は日曜なので、一緒にレニア山に登ろうという事になった。

翌日、空港近くのボーイング社の工場に向かった。三百十三号の敷地に最新設備を備えた航空機工場がある。八機の747型機、同数の767型機の最終組み立てを同時に行える世界最大の工場だ。

一行がスペースステーション等を利用した新素材開発について質問したところ、ヨウル氏は「宇宙での致すための条件を質問し、製造業部門を引く張つていられるから。そうした自

州最大の民間企業として市民の誇りとなっている。二人を雇用、地域のハイテク、製造業部門を引く張つていられるから。そうした自

ボ社との会見を終え、スライプ(宇宙実験室の複合金製造実験で実績のあるコーデインター役、高橋工学博士は「スペースステーションの時代になる

と、そこでどんな材料を開発するかはまだ見えないが、ボ社の場合、きちんとその時にターゲットを絞って研究に入っているのがわかった。技術の進展は早い。日本企業も将来的に絞って

だが、正直いって、一行のボ社の取材は空振りだった。ボ社の観光コースはたれて見られるのだが、要求した場内の機械類の見学は一切シャットアウト。敷地内のカメラ撮影も一切禁止された。

一行は帰りの車の中で「単独の工場があるからかな」日本貿易摩擦、東芝の問題などが背景にあるのか、などと話し合った。

結局、原因は昭和アルミニウム開発企画室主任、塚本建次さんの言葉のような気がした。塚本さんは「アメリカはギブ・アンド・テイクの社会。ギブのほう、テイクばかりの姿勢では本當の情報はとれない。こちらもお互いが喜ぶ情報を用意しておくのが当然だ」と渡航前から主張していたのだ。

敗戦国から一人当たりのGNP世界一になった日本に、アメリカは当然ながらギブ・アンド・テイクを求めている。レニア山もボーイング社も、務めの中で見えた。アメリカのシニアたちが、表情をのぞいた気がした。(つづく) (小野寺 裕記者)

## 宇宙の商業化に的 航空宇宙 地元の合意必要

航空宇宙 地元の合意必要 企業誘致

一行がスペースステーション等を利用した新素材開発について質問したところ、ヨウル氏は「宇宙での致すための条件を質問し、製造業部門を引く張つていられるから。そうした自

州最大の民間企業として市民の誇りとなっている。二人を雇用、地域のハイテク、製造業部門を引く張つていられるから。そうした自

ボ社との会見を終え、スライプ(宇宙実験室の複合金製造実験で実績のあるコーデインター役、高橋工学博士は「スペースステーションの時代になる



ボーイング・エアロスペース(上)とその入り口(中は撮影禁止だった)



だが、正直いって、一行のボ社の取材は空振りだった。ボ社の観光コースはたれて見られるのだが、要求した場内の機械類の見学は一切シャットアウト。敷地内のカメラ撮影も一切禁止された。

結局、原因は昭和アルミニウム開発企画室主任、塚本建次さんの言葉のような気がした。塚本さんは「アメリカはギブ・アンド・テイクの社会。ギブのほう、テイクばかりの姿勢では本當の情報はとれない。こちらもお互いが喜ぶ情報を用意しておくのが当然だ」と渡航前から主張していたのだ。

### ボーイング社工場

ボーイング社工場

ボーイング社工場

ボーイング社工場

ボーイング社工場

ボーイング社工場

ボーイング社工場

ボーイング社工場

ボーイング社工場

ボーイング社工場

小林レンタカー 0155-5858